実務選択コース　１学年通信

七 転 八 起

物言へば　唇寒し　秋の風

訳：転じて、うっかりものを言うと、それが原因となって災いを招く。口は災いのもと。（松尾芭蕉）

第 9 号

2019 年 12 月 2 日発行

１２月に入り、いよいよ冬本番を迎え、生徒たちも防寒具を身に付け、登下校をしている様子が見られます。そろそろ生徒たちにとっては冬休みが待ち遠しく感じているのではないでしょうか。

しかし、今月は後期中間考査が行われます。先日、前期の通知表を手にしたことで、テストに向けての意識が高まり、しっかりと準備をして臨んでくれることを期待しています。

また、１２月は１年生にとっては、三者面談の時期でもあります。来年度から始まる選択授業や、将来の希望進路、日ごろの学校生活等についての話し合いが持たれます。この面談を自分の将来について、家庭で話し合う、よい機会と捉えてください。

職場見学の進行状況

来年２月３日（月）～７日（金）の間に職場見学が予定されています。この行事は基本的に生徒全員参加です。１年次の総合学習の最終目標として、この行事が設定されていることは年度当初からお話ししている通りです。現在の進行状況ですが、先月に生徒からアンケートを取り、ほぼ全員が第１希望になるように担当教員を配置しました。そして、現在、その業種の担当となった教員が、企業に連絡を入れ、本校の生徒を受け入れ可能かどうか、可能であれば、何人まで大丈夫かということを伺っています。この後、誰がどの企業に行くのかが決定し、事前指導や担当教員との打ち合わせを繰り返したのち、いよいよ会社工場見学を迎えます。

ただ見学に行くというのではなく、学ぼうという高い意識をもってこの行事の準備をし、参加してください。

冬休みに向けて

１２月２５日（水）～１月７日（火）の期間は冬季休業です。ここでは生徒の皆さんが冬休みを過ごすにあたっての諸注意について説明していきます。

冬休みといっても、好き勝手に生活をしていいわけではない。

冬休みというのは「休み」の名前の通り、「生徒自身の健康の維持・増進を図り、自ら計画し、自律的な生活態度を育てるための期間」です。登校しなくてもかまわないからといって、生活習慣を崩し休み明けの学校生活に支障をきたすようであれば、冬休みをとった意味がありません。

冬季休業の意義

１、健康の維持・増進を図り、自ら計画し、自律的な生活態度を育成する。

２、日常の学校における教育活動では得られない生活経験や学習経験をすることにより、趣味や教養を高め個性の伸長を図る。

３、個人の実態に即して、健康を害している者は治療し、学業不振の者は補充に努め、なお一層高校生活の充実を図るよう努力する。

４、家庭における家族の一員としての役割を自覚し、その役割を果たすことによって協力的態度を育成する。

有意義な冬休みを過ごせるように自分が何をすべきかをしっかり考え、行動してください。「冬季休業中の生徒心得」が別途配布されますのでそちらもしっかりと確認し、実践してください。

今後の予定

日付	予定
１２月　２日（月）～２４日（木）	三者面談（クラスによって日程が異なります）
４日（水）、５日（木）	秋の行事費納入
２４日（火）	全校集会（６校時目）
２５日（水）～１月　７日（火）	冬季休業
２５日（水）～２７日（金）	冬期進学者講習（大学進学者希望者等）
１月　８日（水）	全校集会・一斉指導・大掃除等（午前放課）
９日（木）、１０日（金）	本校入試（生徒は自宅学習）
１４日（火）	通常授業

保護者の皆様へ

令和元年も師走を迎えました。１年生の生徒たちにとっては高校入学後、初めての冬休みを迎えます。年末年始は何かと誘惑の多い時期でもありますので、ご家庭でも行き先の把握、帰宅時間の徹底をお願いいたします。また、不規則な生活になるのもこの時期です。早寝早起きの習慣が崩れてしまうと冬休み明けの遅刻や欠席に影響してしまうことがありますので、帰宅時間と合わせてご指導願います。

さて、１学年では１２月中に三者面談を予定し、すでに始まっているクラスもあります。来年度の選択科目について、調査用紙をもとに面談を行います。人数も多く、時間が限られていますので、進路希望と合わせまして、生徒と十分に話し合いのうえ面談にご参加くださいますようお願い申し上げます。

※面談当日は上履きをご持参のうえ、生徒昇降口から出入りいただき、下履きにつきましては、教室まで持ってご移動ください。

TKP コラム　Vol.12

「言えなくなった言葉を取り戻そう」

学年主任　末松孝治

私はよく、娘を膝の上に乗せて、絵本の読み聞かせをします。三女が好きな絵本に『どうぞのいす』という絵本があります。

内容は小さな椅子を作ったウサギさんが、野原の木の下に置き、そばに「どうぞのいす」と書いた立て札を立てました。はじめにやってきたロバさんは、椅子の上にドングリがいっぱい入ったカゴを置いて、近くの木の下で、くうくうとお昼寝をしてしまいます。

そこへクマさん、キツネさん、リスさんと動物たちが次々とやってきて、カゴの中のものを「どうぞならば　いただこう」と言って、全部食べてしまいます。

しかし、その度に「でも　からっぽに　してしまっては　あとの　ひとに　おきのどく」と言って、自分が持っていた食べものをカゴに入れて帰っていきます。

ロバさんがお昼寝から目を覚ましたとき、椅子の上にあったのは…栗でした。何も知らないロバさんはドングリがクリに変身していて、ビックリ。(笑)

ウサギさんが、「誰かのために」という思いで作った椅子を通じて、その思いが、たくさんの動物たちに広がっていきます。自分がされて嬉しかったことを、別の人にするというところが素晴らしいです。それも、無理をして他者のためにやっているのではなく、自分ができることをできるぶんだけやるという、押しつけがましさのないところが、心にスッと入ってきます。

自分のことばかりを考える人が増えてきたこの時代に、ほのぼのさせてくれる作品です。特にわが子には、この絵本を通して、「欲しいものを独り占めするのではなくて、みんなで分かち合う優しさを身につけて欲しい」という思いを込めて、いつも読み聞かせをしています。

さて、今月４歳の娘が保育園の『クリスマスお楽しみ会』で劇をすることになりました。演目は『どうぞのいす』です。役を決める時、娘は迷わずウサギさんの役に手を挙げました。しかし、ウサギさんの役は３人と決まっていました。手を挙げたのは、娘を含めて４人でした。困った様子の先生は、「誰かリスさんの役をやってくれる人はいませんか」と聞くと、娘が「私、リスさんでもいいよ」と言って、ウサギさんの役を譲ったそうです。

その話を保育園の先生から聞いた日、私は、娘を抱きかかえながら、「よく、どうぞが言えたね」って褒めてあげました。そしたら、娘は「だって、『どうぞのいす』だもんね」と一言。

娘は親や先生から「譲りなさい」と言われた訳ではありません。『どうぞのいす』の絵本を繰り返し読み聞かせられているうちに自然と「どうぞ」という言葉を口に出せるようになったのではないかと思います。

最近、うちの娘の口癖は「お先にどうぞ」です。４歳の子どもにドアを開けてもらって、「お先にどうぞ」って言われるとドキッとします。そんな時、私は閉まろうとするドアを支えながら、「ここは、レディファーストでどうぞ」と言うと娘が「サンキュー」って言ってくれます。

こんな親バカぶりは置いておいて、たぶん皆さんが小さい頃は、「ありがとう」も「行ってきます」も「いただきます」も大きな声で言えたはずです。しかし、いつ頃からか、それらの言葉を口にすら出せなくなってはいませんか。

４歳の子どもができることは、１６歳の君たちなら簡単にできるはずです。まずは、「どうぞ」の気持ちと言葉から。そして、言えなくなってしまった言葉を１つずつ取り戻して口に出していきませんか。

いつか、父親、母親になるために。